湯沢市地域学校協働本部便り（教職員、地域の皆さんへ）　No. 2　2023, 7, 21

ともに　前に１歩

湯沢市
地域学校協働活動
ニュース

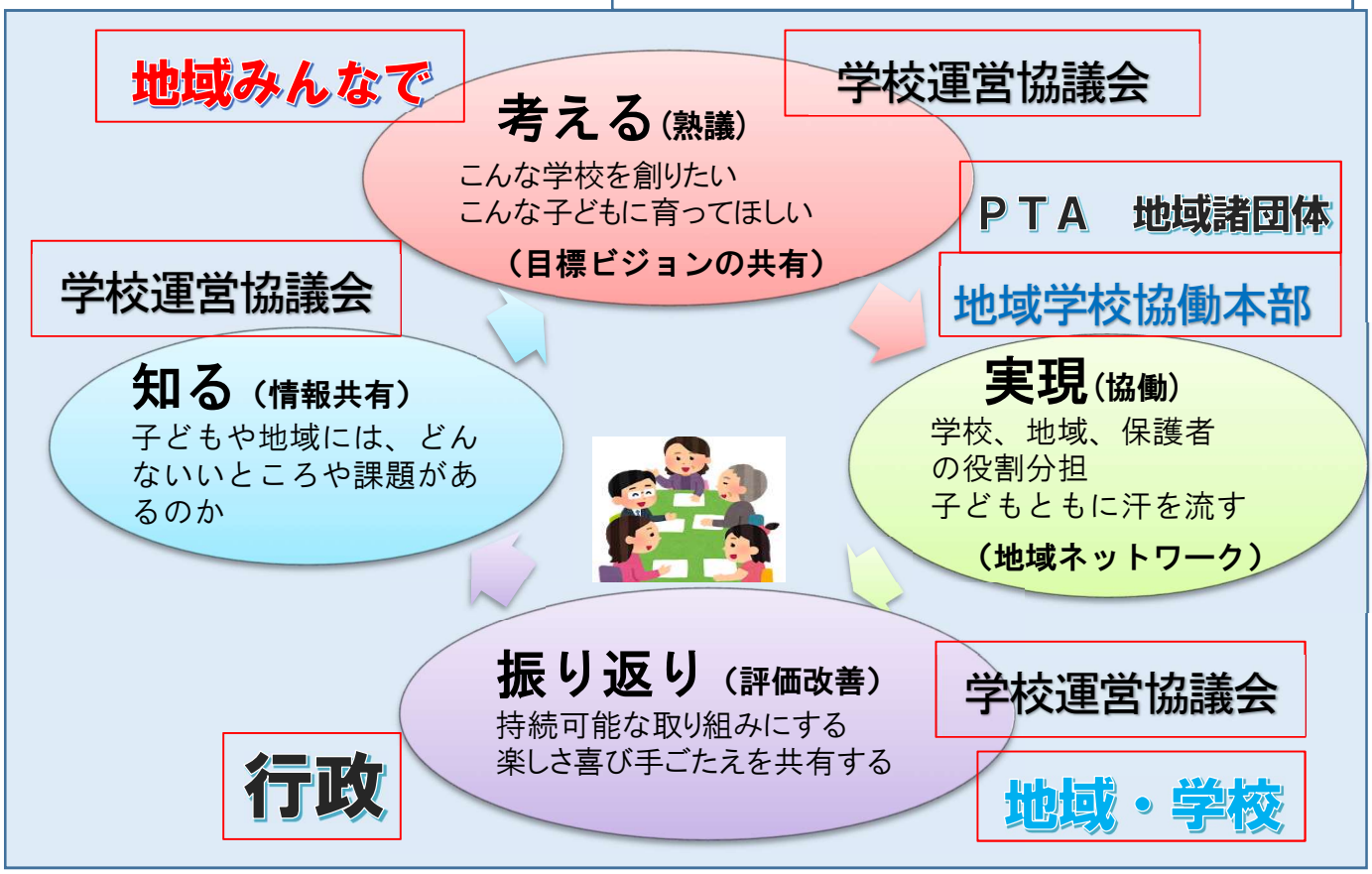
１　なぜ学校と地域が結び付けばよいのか

持続可能な地域社会にむけて･･･次の事柄をどう考えますか？　（文科省中央教育審議会より）

・これまでの地縁団体ではなく、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実を図る。
・次代を担う子どもたちへの教育は、今の大人の未来に直結するので重要な課題である。
・地方創生という考え方の中に、地域の活性化に関する方向性が見える。
・地域と学校が、依頼に応じた手伝いだけをしている関係で成り立っているのは連携ではない。
・学校が地域コミュニティの核となって地域の活性化ができるのではないだろうか。
・正解のない未来に向けて、学校だけではやっていくことが難しい。
・学校に偏りすぎた教育観の見直しを図る。＜協働という言葉がこれからのスタンダードになる。＞

２　動き出す地域学校協働活動

～地域と学校がパートナーとして子どもを育てるため



◎ 組織を生かして、持続可能なサイクルを構築する。
◎ これまでは、個に頼っていた活動を組織的な活動にする。

3　学校と地域の一体化で進める活動例＜連携して進めていきたいこと＞

【地域の人材を生かし　学校への多様な支援活動】地域ボランティアの活用

- 学習支援（学習補助、出前授業、読み聞かせなど）企業や各種団体、高校とのタイアップ
- 学校行事の補助（なべっこ　入学卒業式　学習発表会　運動会など）
- 長期休業中や放課後の自主学習支援・体験活動の実施
- 校内環境の整備（花壇や図書館、校内掲示物）
- 小中連携の活動（協働本部を生かして、小学校と中学校との連携）
- 登下校中や校外学習時の見守り活動 など

【地域へ参画し　未来の地域人材を育成】

- ふるさと教育での体験活動の広がり
- イベントやボランティア活動への参加（地域貢献への参加　高校生と小・中学校のコラボ）
- 近隣・異校種・地域団体との連携（挨拶運動　祭りへの参加　安全マップづくり）

【地域資源を生かした　ふるさと学習】

- 職場体験学習→キャリア教育　（職場体験企業の確保　生き方学習の講師）
- 郷土の伝統や歴史学習→ゲストティーチャー　（番楽など伝統芸能の伝承の補助）
- 文化芸術学習（お祭りや地域行事への参画など）

【学校の力を生かし　学びによるまちづくり】

- 地域住民を巻き込んだＰＴＡ活動や親子体験
- 地域資源を活用した学習（起業体験、地域おこし）
- 地域課題を解決する学習（人口減少、高齢化）や「ふるさと」について調べ、市や住民との意見交換
- 地域合同防災体験　（避難所開所　緊急時の行動　非常食）
- 地域振興に向けた多様な活動の連携（地域祭でのブラバンの演奏など）

4　地域と学校が手を取りあって・・・

ふるさと教育で子どもに伝えたいこと？いろいろとありますが、地域の人々が、その場所でどう生きてきたのかを伝えることを大切ではないでしょうか。自然もきれいな風景もふるさとの宝です。しかし、ふるさとの人々が、何を見て、何を願い、何を考えて求めてきたのかを伝えることが大切ではないかと考えます。18 日に湯沢北中学校の 3 年生の家庭科で「支援される側から支援する側に」という授業がありました。生徒たちが考えた高齢者に向けの共生活動「ハッピープラン」を地域の方（民生児童委員）と話し合う内容でしたが、まさに考えを交流する姿にふるさと教育の本質を見たような気がします。〈社会福祉協議会とのタイアップした授業です〉

ひと・もの・ことに関心を持たせることはキャリア教育の中で大事なことだと言われています。しかし、学校現場だけで育てることが可能でしょうか。ＣＳとの一体化の活動として、地域を支える人材をどう育てるのか、そのために学校と地域と手を取り合っていくことが必要です。

※「地域との連携・協働」は、特に中学校では、生徒の主体性を奪うような必要以上の支援ではないかという声も聞かれます。「やってあげる」ということが「支援」のすべてではありません。子どもの成長に必要なことは何か、何ができるのか、CS や熟議などを通して地域と学校が一緒に考えていきましょう。